



Create Hope in the World

『世界に希望を生み出そう』

2023-2024年度RIテーマ 会長 ゴードン R. マッキナリー

■ 点鐘 / 12:30 ■ 例会場 / 山形グランドホテル：サンリヴァ ■ 出席報告 / 55名 (会員数 87名)

会長メッセージ

山響が子供たちに与え続ける「音楽のミルク」

先週は山形交響楽団鑑賞例会に大勢のご参加ありがとうございました。改めて紹介しますが、山響は園部稔さんが理事長をお務めで、一昨年創立50年を迎えました。日本にプロオーケストラというのは25団体(東北では山響と仙台フィルハーモニー管弦楽団)しかなく、しかも山響は仙台フィルに先駆け1972年に東北初のプロオーケストラとして誕生しました。

規模からみればNHK交響楽団(N響)や東京フィルハーモニー交響楽団(東フィル)などに及びませんが、演奏レベルの高さと共に特色のある活動が高い評価を得ています。5年ほど前、ある音楽専門誌が「評論家・ジャーナリストが選ぶ世界のオーケストラランキング」を企画しました。そこで山響はなんと「世界で45位」「日本で6位」の評価を得たのです。オーケストラをランク付けすることに異論があるのも事実ですが、人口25万人の小さな町に世界で通用するオーケストラが存在していることは誇るべきことです。

山響を他のオーケストラと際立たせているものの一つに、創立時から欠かさず続けて来た「スクールコンサート」という取り組みがあります。県内各市町村の小中学生を対象に体育館や公民館等で子供たちに生のオーケストラの演奏を聴かせるという活動で、50年間に5,000回以上、聴いた子供たちの数はのべ300万人に達しているそうです。

これは創立名誉指揮者である村川千秋さんが掲げた「山形の子供たちに本物の音楽を届けて、子供たちに『音楽のミルク』を与える」という理念に基づくものです。そこには村川さんの「音楽は心のミルクであり、人間形成の栄養素である」との信念があります。つまり、年少期(特に10歳くらいまで)に見たり、聴いたり、味わったりして脳みそにインプットさせておかないと、その後仮に同じ経験をして、ましてや本やネットで得た知識

によっては決して身につけられない何かがあるということです。私は脳科学などの専門知識はありませんが、ものの本によれば「身体知」という言葉があるそうで、本物の楽器の音や空気感を子供の頃に経験することがいかに大切か、この歳になって特に感じます。

専務理事の西濱秀樹さんの話では、全国25のプロオーケストラで、地元のすべての市町村で小中学生向けのコンサートを実施しているケースは山響以外はないそうです。例えば宮城県には仙台フィルがあり、群馬県(高崎市)には群馬交響楽団(群響)という歴史のあるオーケストラがありますが、どちらもやっていないとのこと。ここは村川さんの理念に加えて、人口の「少なさ」がもう一つのポイントかもしれません。山形の子供たちはそれだけ生の演奏を聴けるチャンスに恵まれているということです。人口が県で100万人しかいないことが、決して逆説でも自虐的な見方でもなく、「オンリー山形」のソフトパワーになり得るという一つの形ではないでしょうか。

山響が創立以来の理念としてこのコンサートで50年蒔いてきた種が、確実に花を咲かせつつあると思っています。では私自身はといいますと、山響がスクールコンサートを始めた時には残念ながらもう高校生でした。もし聴いていたら、カラオケも、はたまた小唄ももっとうまくなっていたのではないかと、などとつぶやいて話を締めくくらせていただきます。



国歌・ロータリーソング ニコニコ情報



金山ソングリーダー



ニコニコ委員会
五十嵐委員長

● 佐藤 公啓さん
健康経営優良法人7年連続認定、ブライツ500は2回目の認定となりました。また、運送業界の「働きやすい職場認証制度」で三ツ星認定されました。今年から始まった「三ツ星」は全国67,000社中、33社のみ、東北で3社、山形県では当社のみが認定されました。さらに、やまがたスマイル企業認定制度で、ダイヤモンドスマイルは、運送業では当社のみが認定されました。

四つのテスト 真実かどうか みんなに公平か 好意と友情を深めるか みんなのためになるかどうか

1950年8月5日 RI加盟承認 承認番号7587号(なごやか)

■ 例会/毎週水曜日12:30開会点鐘 第5週18:00開会点鐘 ■ 例会場/山形グランドホテル
■ 事務局/山形市十日町1-1-26-2F ■ TEL:023-632-7777 ■ FAX:023-624-5200
■ E-mail:yamagata09@rid2800.jp

ホームページはこちらから

パスワードは事務局へ
お問合せ下さい。



イニシエーションスピーチ

『安心・安全な地域・社会の実現に向けて』

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 山形支店 支店長 浅井 宏昌 さん



あいおいニッセイ同和損保の浅井です。昨年4月に山形へ着任し、歴史と伝統ある山形ロータリークラブに入会させていただき、またこのような機会をいただき感謝いたします。折角の機会ですので、簡単ですが冒頭に自己紹介をさせていただきます。折角の機会ですので、簡単ですが冒頭に自己紹介をさせていただきます。折角の機会ですので、簡単ですが冒頭に自己紹介をさせていただきます。折角の機会ですので、簡単ですが冒頭に自己紹介をさせていただきます。

だくことや、専用の小さな機器(タグ)を装着してもらうことで、急発進、急ブレーキ、急ハンドル、速度超過などのデータを把握することが可能となっています。当社のテレマティクス自動車保険では、先ほどの急加速、急ブレーキなどのデータを点数化して、安全スコアとしてお客さまへフィードバックさせていただくとともに、点数化やランク表示をすることで、高得点のお客さまは翌年度の保険料が割引になるという仕組みにもしております。また、テレマティクス損害サービスと記載がありますが、弊社の専用ドライブレコーダーの場合には、一定以上の衝撃を感知した場合、位置情報やドライブレコーダーの動画がコールセンターへ自動送信されるとともにコールセンタースタッフから即座にお客さまへ連絡が入るようになっており、万が一の際も、より安心を提供できる仕組みに進化しています。先ほどのことと、運転データが点数化されることで、お客さまも安全運転を意識することになり、上記のとおり事故の発生する確率が15%低減する等、事故を起こした後の保険から、事故を起こさない保険へと進化していると言えるかと思えます。なお、山形では、既に約1400台のご契約をいただいています。さらに、地域・社会の課題の一つでもある交通安全対策の立案等に繋げようということで、お客さまの膨大な走行データであるビッグデータを整理して、テレマティクス交通安全マップという形にもなっています。このマップで急加速や急減速が多い地点を特定して、事故が起こりかねない地点ということで自治体や警察とデータを共有することにより、交通安全対策に役立てていただくという取り組みも進めています。また、加速度センサーでは、道路の凹凸などによる情報も収集できるため、従来であれば道路の異常をご担当者の目検や地域住民からの連絡に基づき把握・対処していたものを、異常箇所をデータから把握することや、その予兆を感知していくというようなことにもチャレンジしています。テレマティクス自動車保険に加入し安全運転・エコ運転に取組んでいただいているご契約者の皆さま向けに、CO₂削減量を可視化することで、環境改善への取組みにより貢献いただけるような仕組みも用意しております。

次に、損害保険についてご案内させていただきますが、会員の皆さまには釈迦に説法だと思います。損害保険は、わたしたちの日常を取り巻くリスクに備えるための1つの手段であります。個人の暮らしや事業活動を支えるための保険として分類していますが、さまざまなリスクに備えるため、リスクの数だけ損害保険の種類があるといってもよいかもしれません。ここでは、損害保険の歴史と未来についてですが、海上貿易の発展とともに1300年ごろから海上保険が生まれ、火災保険、自動車保険など、社会・ルールなどの変化に応じて損害保険が生まれ、近年では新種保険といわれる新たなリスクに備える保険として、サイバー保険やドローン保険など、さまざまな保険が生まれています。

次に当社、あいおいニッセイ同和損保についてですが、社名のなかにひらがな、カタカナ、漢字が混ざっている珍しい社名です。これは、保険が自由化されて以降に2度の合併を経て、2010年10月に誕生しました。損保業界では、大手4社というように表現もされることがあり、当社はそのうちの4番目の会社であるものの、唯一の財閥系ではない企業であり、地域の中小企業のみならず個人のお客さまとともに成長をさせていただいた会社だと思っています。当社では、CSV×DXというものをコンセプトに掲げております。CSVとはCreating Shared Valueの省略で社会との共通価値の創造という意味であり、CSV×DXというのは、デジタル・データを活用することで、新たな価値を創造し、お客さま・地域・社会とともに、社会課題の解決を目指すというものです。具体的なイメージは下の図にもありますとおり、従来の保険は、万が一の事故があった際にお役に立てるものですが、デジタル・データを活用することにより、事故を起こさない・起こしにくい保険へ進化させています。さらには、お客さまの膨大なビッグデータを活用して、地域・社会の課題を解決できる保険を目指していこうとしております。その代表例が、テレマティクス技術を活用した自動車保険です。加速度センサーが入ったドライブレコーダーを装着して

最後になりますが、すこし強引ではありますが、オンリー山形としての話となります。山形でも県・市と地方創生の連携協定を締結しており、山形市ではテレマティクス技術を活用した交通安全イベントを開催しております。専用の機器(小さなタグ)を無料で貸出し、社有車や自家用車に1か月間設置いただくことで、イベント参加者のデータを集約することを行っています。企業ごとの対抗戦にすることや、個人表彰などを行うことも可能です。このようなイベント等も通じて、山形における交通安全とエコドライブ推進につなげる等、データ技術も活用する取組みを進めることで、山形をより安心・安全な社会・地域にしていこうという好循環のサイクルに微力ではありますが貢献していきたいと考えています。ご清聴ありがとうございました。

The presentation slides cover the following topics:

- 01 自己紹介 (Self Introduction)
- 02 損害保険について (About Insurance)
- 03 あいおいニッセイ同和損保について (About Aioi Nissai Doho)
- 04 安心・安全な地域・社会の実現に向けて (Towards a Safe and Secure Community/Society)
- 05 オンリー山形 (Only Yamagata)

Key data points from the slides include:

- 2024年4月7日 新規加入者数 180万台突破
- 2025年300万台目標
- 国内の契約台数180万台突破
- 2025年300万台目標

編集後記 田中会長からの挨拶で、山形交響楽団様が山形の子供たちへ、本物の音楽を聴く体験を継続されていることに、感銘を受けました。私も当社50周年記念時など、山形交響楽団様の音楽を聴く体験をして感激しましたが、その経験が子供の時にできることは、素晴らしいことだと思います。浅井会員のイニシエーションスピーチでは、急ブレーキ、急ハンドルの発生箇所の頻度を共有することで、山形の交通安全につながる活動等があり、素晴らしい取り組みと感じました。(担当/工藤和夫)